



Fukuoka Growth

07 スタートアップ都市を目指すもの

(Version1.1)

福岡の成長ポテンシャル

公益財団法人福岡アジア都市研究所

情報戦略室

後藤 太一
富山 尚久
山田 美里

日本は、諸外国と比較して起業家は少ないのが現状です
アメリカに代表される旺盛な起業家精神によるベンチャー企業の勃興がある一方で
生活のために事業を起こさざるをえない国々もあります
日本は、どちらかという安定志向が強く、リスクを取って起業するよりは
企業等に就職して安定した就業を志向する傾向が強いともいわれますが
これまでは、それらを受け入れる就職先に比較的恵まれていたためと考えられます

しかし、社齢の長い大企業ほど雇用者は減少しつつあり、新規雇用を行うのは比較的若い企業に多い
現実を鑑みると、新たな企業の創業＝起業は、雇用の確保の面でも重要な役割を担っているといえます

日本も、企業や産業の新陳代謝を促進し、新たな雇用の場を創出することに力を入れるときです
起業家がグローバルにビジネス活動の場を探す中で
次代の付加価値を生み出すコアを、国内にもつくらなければなりません
福岡市は、日本でその最も適した環境づくりで、存在感を高めようとしています
それは、日本経済にも、良い影響をもたらすことでしょう

「スタートアップ」とは、「新しい行動や事業を起こすこと」です。

先ごろ閣議決定された国の成長戦略「日本再興戦略」においても、「スタートアップ」は重要な政策と位置付けられていますが、福岡市は、昨年策定した「第9次福岡市基本計画」の中で、既に「新たな挑戦を応援するスタートアップ都市づくり」を重要な政策課題として盛り込んでいます。

さらに、福岡市における創業支援の環境を効果的に整備するために、国の国家戦略特区アイデア提案募集に対し、「グローバル・スタートアップ国家戦略特区」の申請（後述）を行っています。この特区が認められれば、内外の起業家や投資家の目が、一気に福岡市に集中することが期待されます。

福岡市は、今後20年あまりは人口増加が見込まれる国内でも希な都市で、良好な生活環境とともに、内外のスタートアップを志す人が活動を行う場としての魅力を有しており、既に開業率は国内一の高さです。

内外のアントレプレナー*が、福岡の魅力に引き寄せられて、新たなビジネスを生み出す生態系がさらに大きくなることで、産業の新陳代謝が促進され、都市の自律的で持続的な成長に大きく寄与することになります。

これがスタートアップ都市の目指すべき方向性です。

グローバル・スタートアップ国家戦略特区申請概要

<http://www.fukuoka-dc.jpn.com/?p=5931>

国家戦略特区の提案

概略版

新たな起業と雇用を生み出すグローバル・スタートアップ国家戦略特区

何をやるの？

コンセプト

雇用を生み出す起業（スタートアップ）へのチャレンジを応援する社会へと日本を再構築する。

これを行うと日本は、どうなるの？

- 産業の新陳代謝が進み、時代に合ったより競争力ある産業へ人々の雇用が移る。
- 大きな問題となっている若者の雇用が増える。（15歳～24歳が最も失業率が高い）

スタートアップは雇用に有効なの？

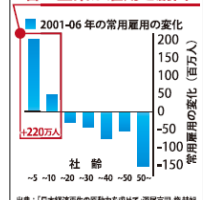
1. 雇用を生み出すスタートアップとは？

(1) 意義

- ①雇用の拡大
- ②企業創出・事業拡大
- ③多様な働き方の創出

経済成長
生活向上

若い企業が雇用を創出

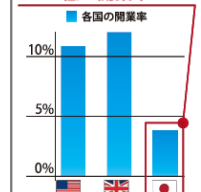


ところが

(2) 現 状

国	開業率	廃業率
日本	約4%	約4.5%
アメリカ	約10%	約9.7%
イギリス	約12%	約9.5%

低い開業率



どうして

(3) 課 題

- Phase1 起業検討期
 - ①意欲・スキルの低下
・起業スキルがあると考えている人 15.2%（42万人中、下から2番目）
- Phase2 立ち上げ期
 - ②環境の弱さ（手続き・コスト・雇用）
開業規制における手続き
- Phase3 成長期
 - ③投資環境の弱さ
ベンチャーキャピタル投資実績額
・欧州の1/30以下、米国の1/10以下
- ④グローバル化の遅れ
・海外とのネットワークが必要

さらに

3. 福岡市での直近の動き

福岡地域戦略推進協議会（FDC）

既に3年前から、産学官で成長戦略を検討

- シンク&ドゥ・タンク 産学官で出資
- 目標：GRP+2.8%、雇用+6万人
- プロジェクト MICE、人材、都市再生

民間企業

福岡市への民間投資機運の高まり

- 過去最大のベンチャーキャピタル
- MICEクラスターへの海外からの投資機運
- アジアを睨んだ立地の動き

福岡市

スタートアップ都市として強く推進

- スタートアップ都市ふくおか宣言
- スタートアップサポーターズ設立
- スタートアップ都市推進協議会

だからプロジェクトができる

4. 実現に向けたプロジェクト

雇用を生み出すスタートアップへのチャレンジを世界に羽ばたかせ、これを応援する日本にする。

その方法は？

- 人々のスタートアップへのチャレンジを促し、企業を育てる。

- 育った企業をMICEを活かして世界とつなげる。

- この取組みを日本各地へ広げる。

- スタートアップ都市推進協議会の中心に据えらる。

- ビジネスしやすい福岡で育む

- 開催件数の多い MICE を活用

- スタートアップ都市推進協議会の中心に据えらる

- Project 1 起業意欲やスキルを高める

- 成長する企業を増やす。

- Project 2 戦略的な産業分野を特に進める。

- Project 3 MICE環境を民間資金で整える。

- Project 4 MICEでのマッチングを起こす。

- Project 5 他都市や経済団体と連携する。

目標は...

日本再興戦略

福岡市 全国No.1

成果目標 (KPI)

開業率：10%台（英米並み）

廃業率：（現状4.5%）

開業率：20%（国の目標の倍）

（現状 6.4%）

2. 開業率 No.1 を誇る福岡市の理由は？

Phase1

理由1：スタートアップに適した豊富な人材

- 豊富な人材
- ・人口増加率：No.1
- ・若者率：No.1
- ・女性若者率：No.1
- ・学生の割合：No.2
- 豊富な理系学生と留学生

Phase2

理由2：スタートアップしやすいビジネスコスト

- オフィス賃料：
- 福岡 9,200円
- 東京 30,600円
- シンガポール 27,800円
- 香港 45,009円
- 住みよかった都市 No.1、市民満足度 95%
- 豊かな自然環境と短い通勤時間
- 都市機能と広域交通機能の集積（右図）

Phase3

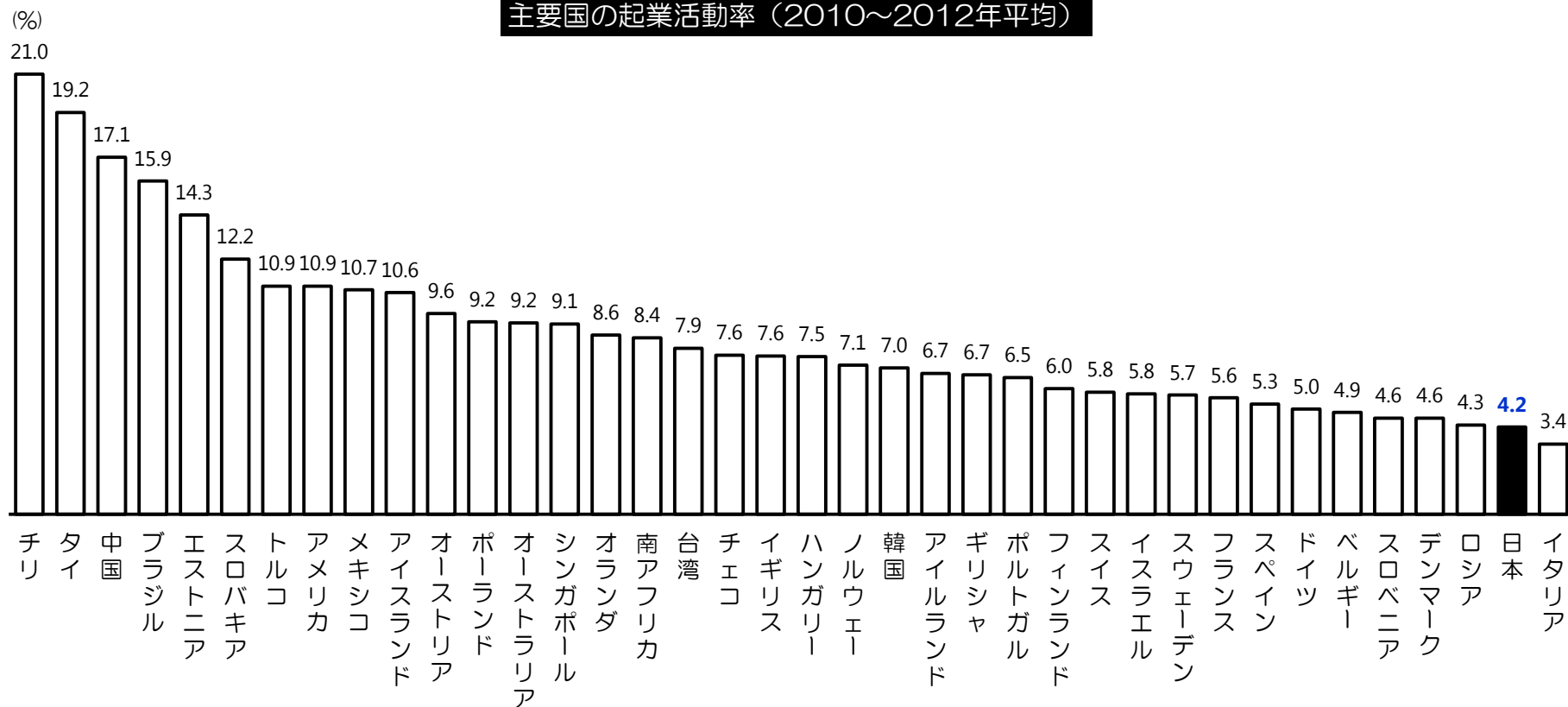
理由3：世界とつながるビジネス環境

- 国際コンベンション開催件数：No.2
- 教育：インターナショナルスクール、市立校での外国人向け補講
- 医療：市内約260の医療機関が外国語での受診対応
- 国連ハビタット：100万都市のモデルとして推奨

国家戦略特区への提案として、福岡市は「グローバル・スタートアップ国家戦略特区」を申請中です。
日本再興戦略で示された「開業率を欧米並に高めて産業の新陳代謝を促進」という方針を、福岡市が先頭に立って実現し、国の数値目標を上回る開業率とすることを目指しています。

世界的には低い日本のアントレプレナーシップ

主要国の起業活動率（2010～2012年平均）



人口あたり起業活動者の数は、日本は諸外国に比べて低い水準にあります。上位は、就職先の少なさから起業に頼らざるを得ない国もありますが、日本のアントレプレナーシップは低調といえます。

資料：Global Entrepreneurship Monitor

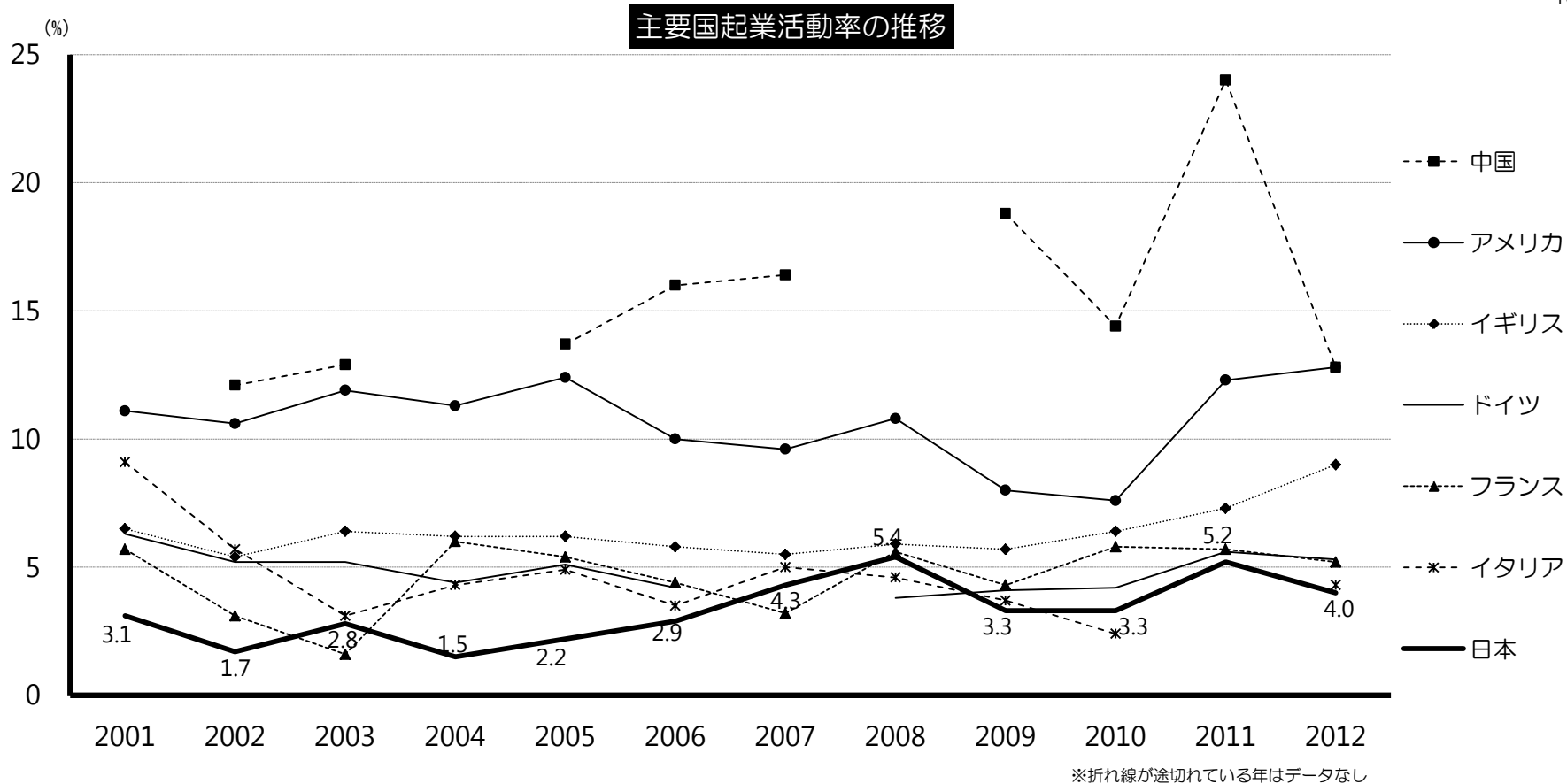
*起業活動率とは18-64歳人口100人あたりの①起業の準備者②創業後3.5年未満企業経営者の合計値

*OECD加盟国、BRICs及びアジア地域のうちデータのある国と地域

*3年間のデータがないところは2年の平均または1年のみの値

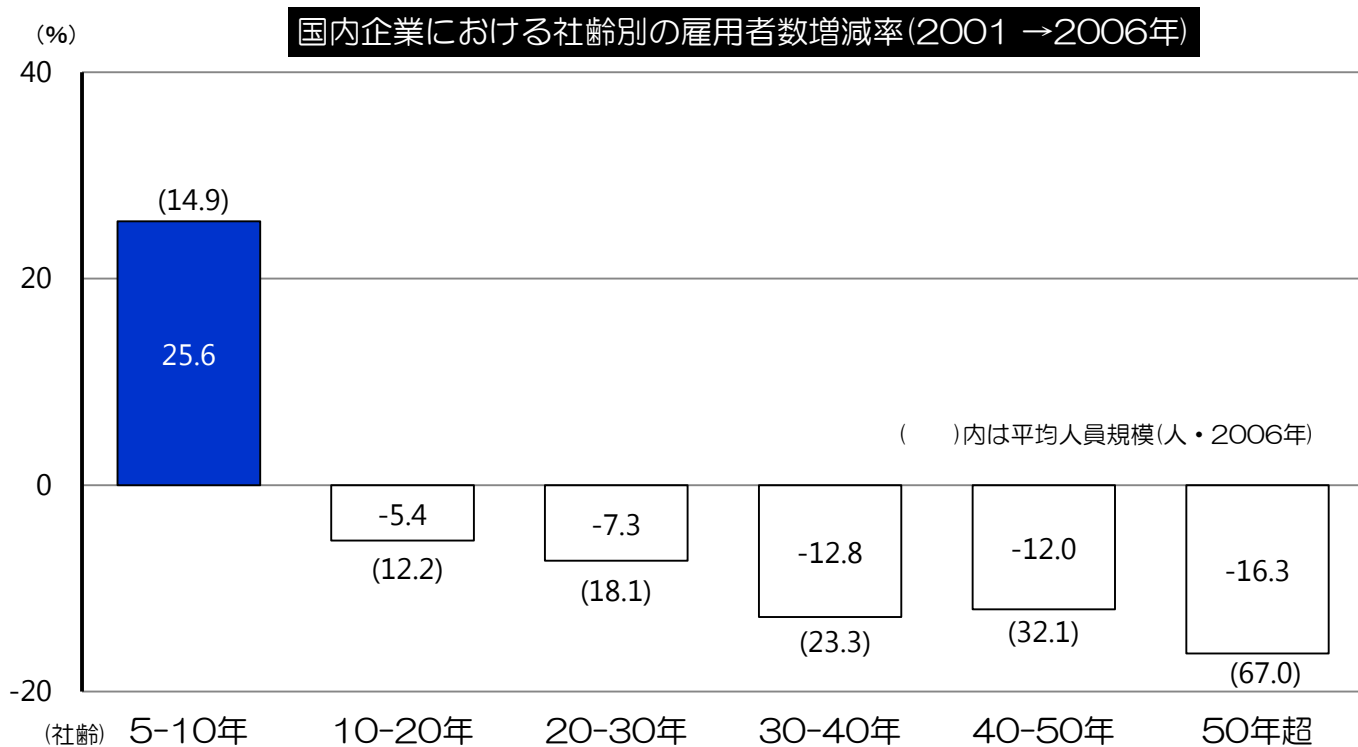
*アントレプレナーシップ：起業家精神

中国とアメリカの高さ～日本は2008年までは増加傾向にあったがその後低迷



日本も2008年までは起業活動者は増加傾向にありましたが、世界的な経済不況の影響を受けて以降は低調な推移となっています。それでも2000年代前半と比較すると高い水準です。アメリカや中国が例外的に高くなっていますが、欧州の先進国と比較して極端に低いわけではありません。スタートアップ支援の充実や内外の起業家を呼び込むことで、福岡市が国や欧州各国を上回る開業率となる可能性はあります。

雇用を生み出す新興企業

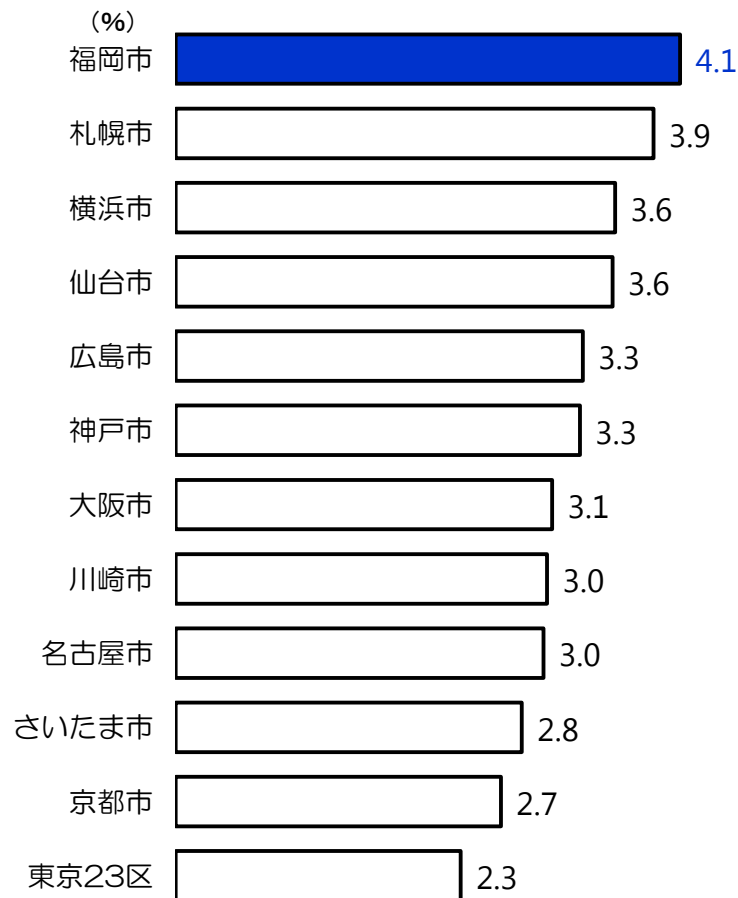


起業が盛んになることは、産業の新陳代謝を促進するだけでなく、雇用の面でも地域に貢献できます。

社齢が長い企業は比較的規模は大きくなっていますが、2001年以降雇用者数を減少している企業が多いのに対し、創業10年以内の企業だけは、規模は小さいながらも雇用を生み出し、雇用者は増加しています。

国内にあっては高い開業率水準

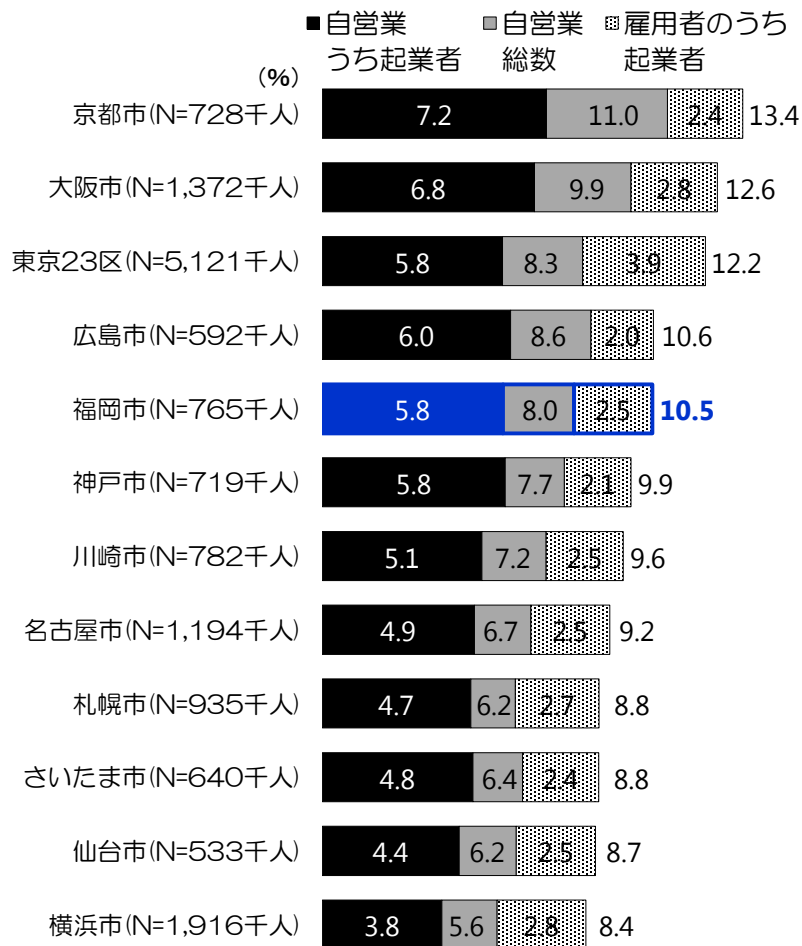
開業率【主要大都市比較】(2006~2009年)



福岡市の開業率(参考推計)は、国内では高い水準となっており、潜在的なアントレプレナーはほかにも少なくないと考えられます。

有業者に占める起業・自営業者割合は約1割

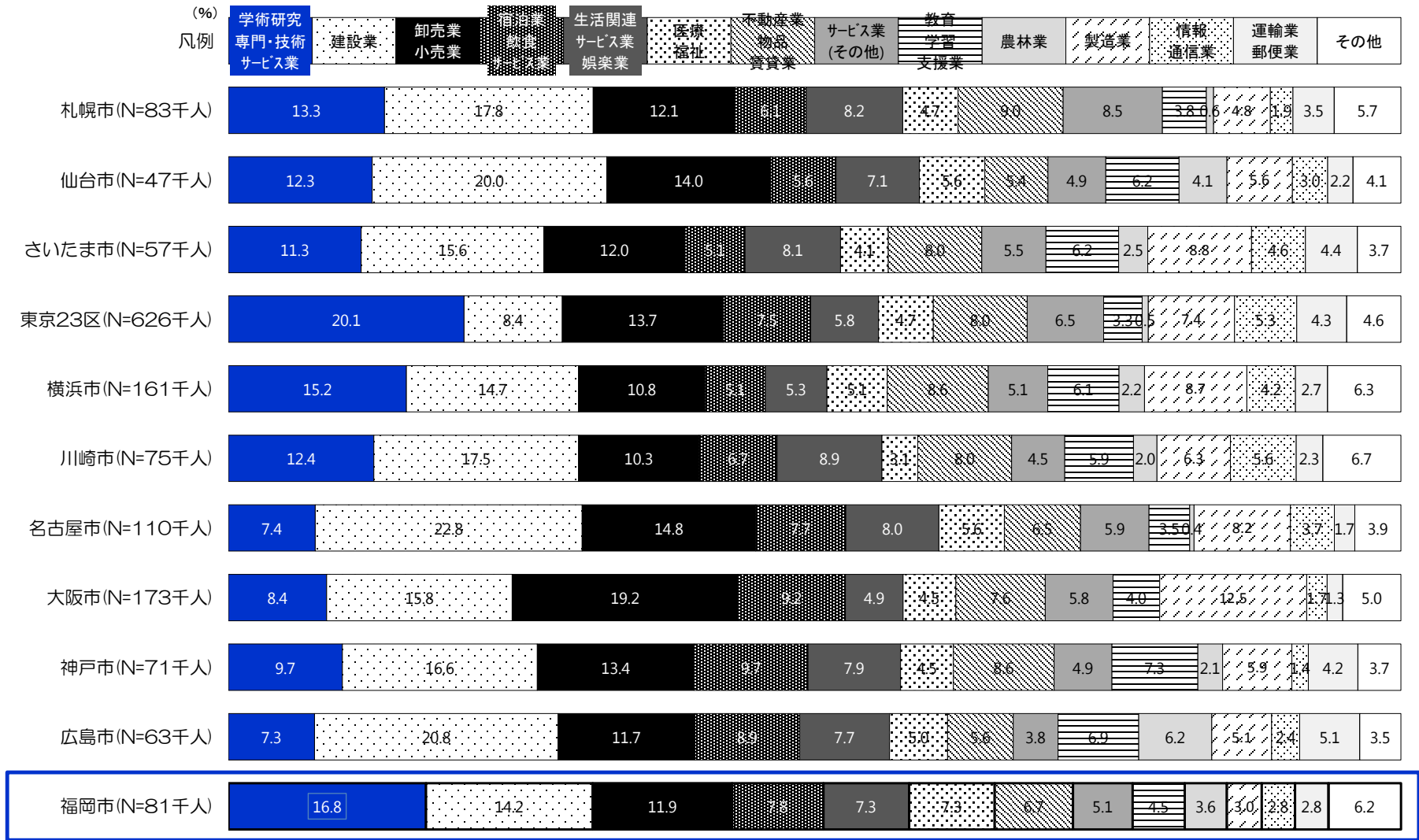
有業者に占める自営業主・起業者割合
【主要大都市比較】(2012年)



福岡市の自営業者や雇用企業の起業者の割合は、全有業者の1割あまりとなっています。

福岡市の起業者は「学術研究,専門・技術サービス業」などサービス業割合が多い

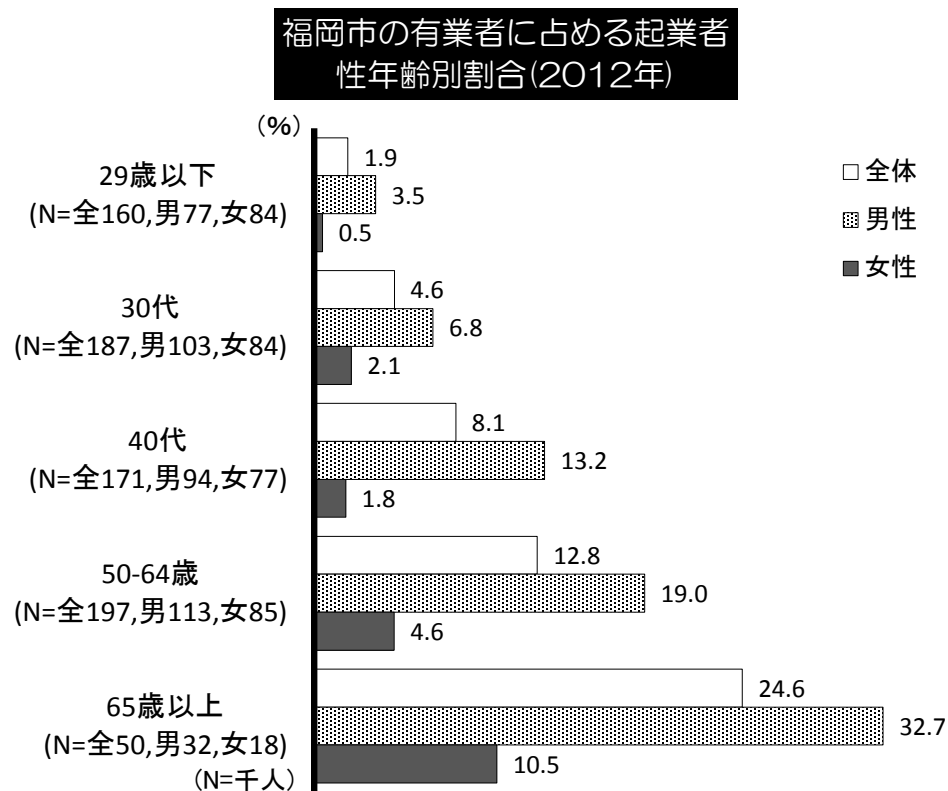
自営業主・起業者の産業分野大分類【主要大都市比較】(2012年)



福岡市の自営業、雇用企業起業者の産業分類は、「学術研究,専門・技術サービス」業が多いのが特徴です。このほか、建設業も多くなっていますが、割合としては他の都市より低く、サービス業関連が多くなっています。

資料：平成24年就業構造基本調査
*自営業主・雇業者起業者の合計
*人口100万人以上大都市

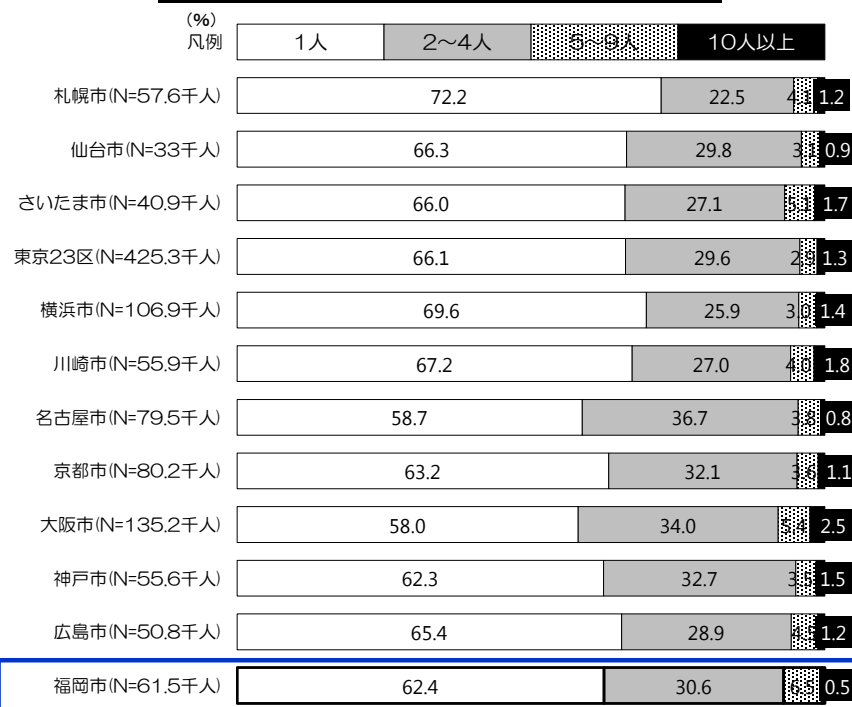
年齢とともに高まる起業者割合～シルバー起業者も多い



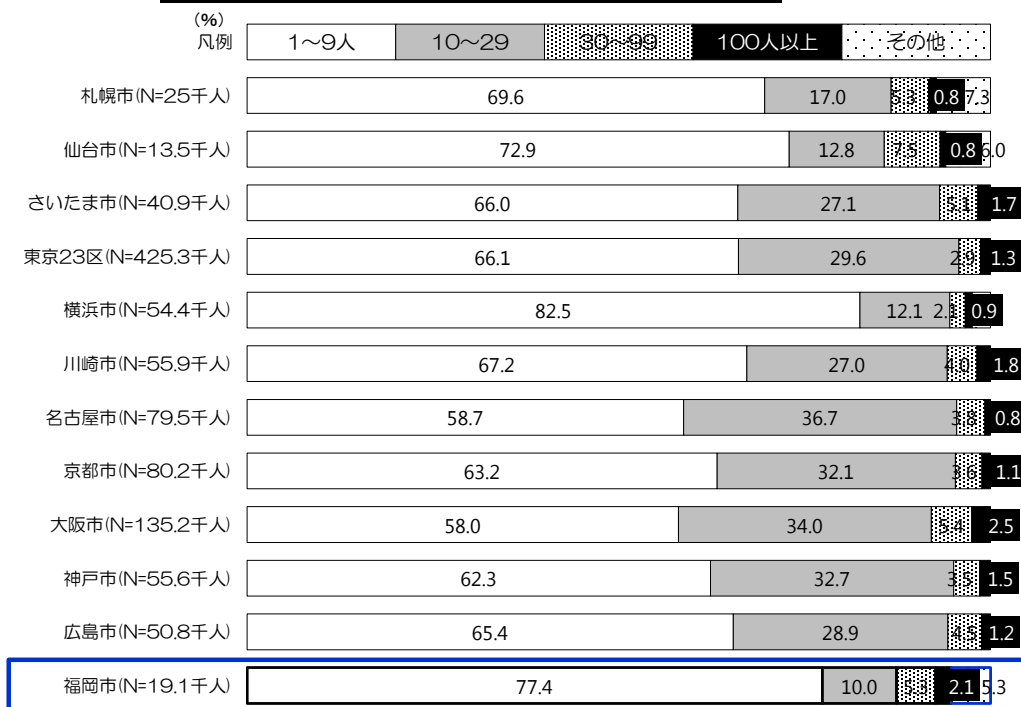
男女とも年齢とともに起業者割合は高くなっており、経験を重ねて起業、独立する人が多い状況がうかがえます。企業等への就職が困難となる65歳以上でも、労働意欲が衰えずに起業をする人も少なくないようです。

自営業、雇用者とも小規模事業所が多い起業者の事業所

自営業主事業所の従業者数【主要大都市比較】(2012年)



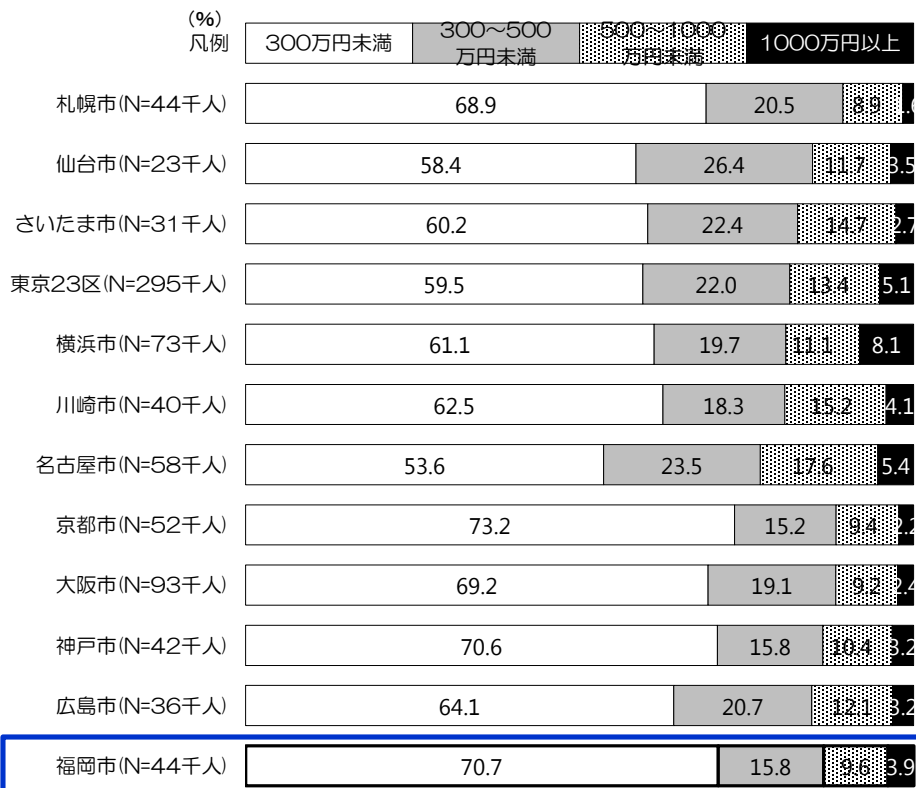
起業者(雇用者)事業所の従業者数【主要大都市比較】(2012年)



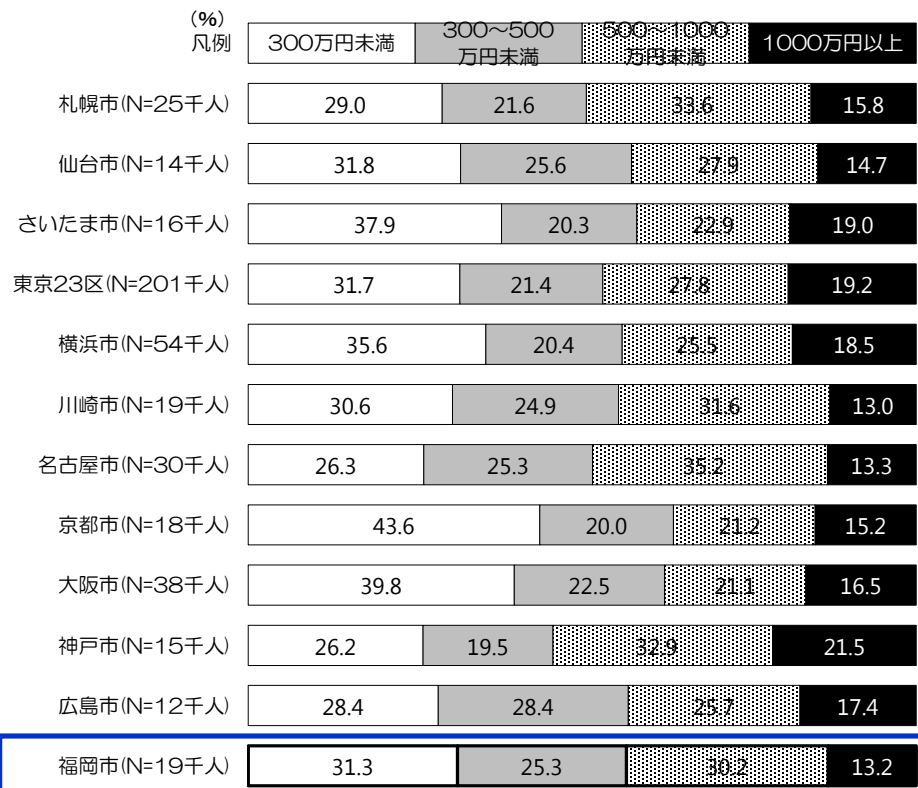
自営業、雇用企業起業者とも小規模事業所が多くなっています。

起業者所得は中間層が多い

「自営業起業者」の所得階層割合【主要大都市比較】(2012年)



「雇用者起業者」の所得階層割合【主要大都市比較】(2012年)



自営業起業者の所得は低い傾向にありますが、雇用企業起業者は、300万円～1000万円未満の中間層割合が厚く、一定の所得水準を保っているようです。

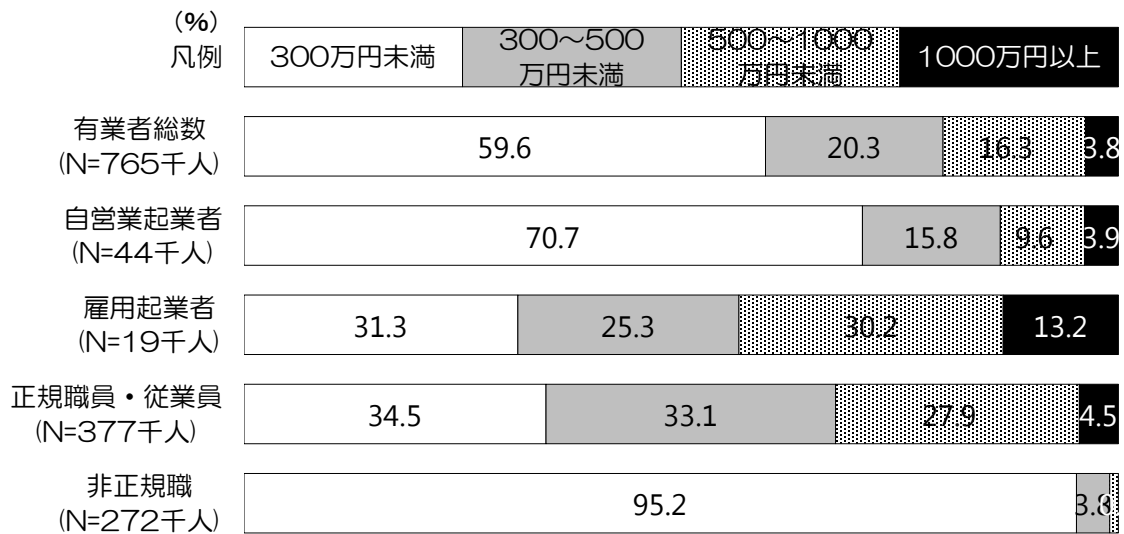
資料：平成24年就業構造基本調査

*自営業・雇用者のうち「起業者」の合計（起業者以外自営業は含まない）

*人口100万人以上大都市

雇用者起業者所得は正規職従業員より所得は高い

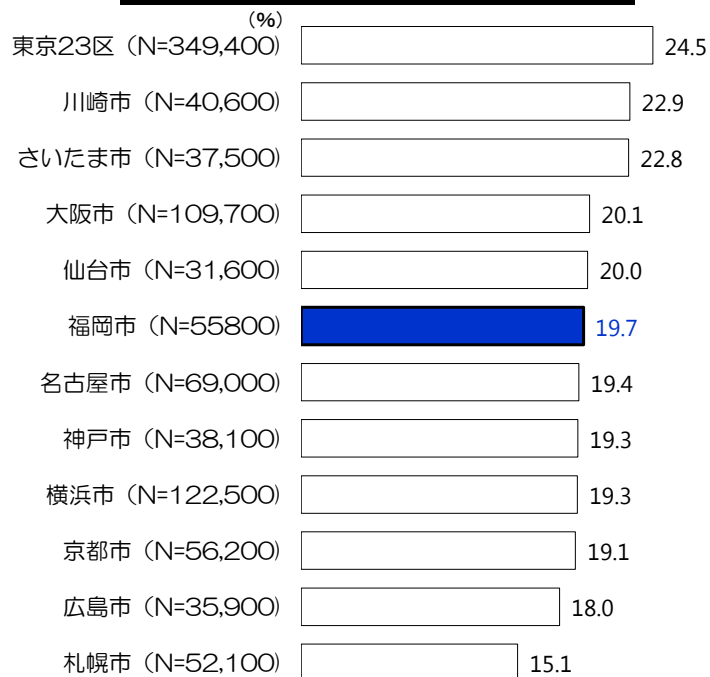
福岡市の有業者・就業形態別所得階層割合(2012年)



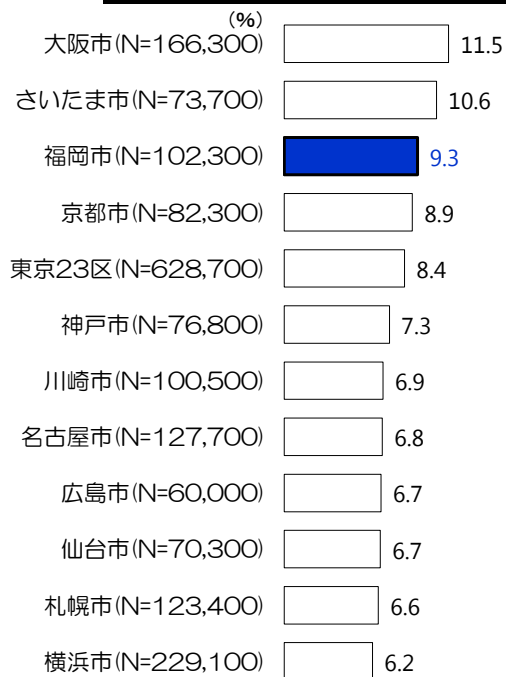
福岡市の起業者の所得水準は、自営業者は低くなっていますが、雇用企業起業者は、高額所得者割合も全体平均を大きく上回り、企業等の正規職員・従業者よりも高い傾向にあります。

潜在的な起業志向も確実に存在する

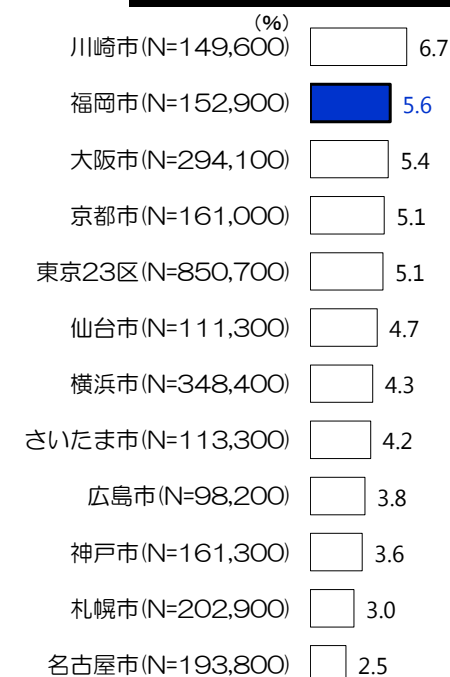
有業者・追加就業希望者のうち起業希望者割合



有業者・転職希望者のうち起業希望者割合



無業者・就職希望者のうち起業希望者割合



有業者・無業者の今後の起業意向は、有業者は「追加」「転職」とも他都市と比較してそれほど高くはありませんが、無業者の起業意識は高くなっています。